

## 11月18日「創価学会創立記念日」

### 導入部

11月18日は、5月3日と並ぶ創価学会の最重要の記念日です。11月18日の歴史と意義を学んでいきましょう。

### 1枚目／創価学会創立記念日 (8枚目の絵の裏に貼る)

11月18日は、創価学会の創立記念日です。1930（昭和5）年11月18日、創価学会は、教育者の集まりである「創価教育学会」として、初代会長・牧口常三郎先生と、後の第二代会長となる戸田城聖先生の師弟二人で出発しました。

現在、世界192カ国・地域に広がるSGI（創価学会インターナショナル）の源流は、ここにあるのです。

### 2枚目／師弟の絆が生んだ『創価教育学体系』（1枚目の絵の裏に貼る）

11月18日を創立記念日としたのは、牧口先生の著書である『創価教育学体系』の第1巻の発刊日が、1930（昭和5）年の11月18日であったからです。

「創価」という言葉は、牧口先生と戸田先生との対話から生まれました。「人生の目的は価値の創造である」と説く牧口先生の思想から、「創価」という名称を戸田先生が提案したのです。

牧口先生は、編集・発刊の一切に携わった戸田先生の尽力なくして、『創価教育学体系』の発刊はなかったと述べています。

### 3枚目／国家権力による弾圧

(2枚目の絵の裏に貼る)

1928 (昭和3)年に日蓮大聖人の仏法に帰依していた牧口先生・戸田先生は、人々の幸福を願い、民衆の生活を向上させていく必要があると痛感していました。そして、それは仏法の実践によって可能であると訴え、創価教育学会は、各地で座談会を開き、地道な活動を展開していきました。

しかし、1930年代当時、日本は戦争へと突き進んでいった時代で、国民を統制するため、国家神道による思想の統一を図っていました。これにより創価教育学会は、国家権力から弾圧されていくこととなります。

### 4枚目／神札を拒否

(3枚目の絵の裏に貼る)

国家権力に迎合した宗門は、大聖人の仏法の根本である御書を改ざんし、学会に対しては、神札を受けよう迫ってきました。しかし、牧口先生は、宗門の要求を断固として拒否しました。

「一宗が減びることではない、一国が減びることをなげくのである」と。

牧口先生の民衆を思う大感情が、そこにはあったのです。

### 5枚目／牧口先生の殉教

(4枚目の絵の裏に貼る)

牧口先生と戸田先生は迫害を恐れず、信念を貫きました。その結果、治安維持法違反と不敬罪の容疑で逮捕されることになりました。

牧口先生は、厳しい取り調べの最中も、仏法の正義を堂々と主張し続けました。約1年4ヶ月の獄中闘争の末、牧口先生は1944年(昭和19年)11月18日に亡くなりました。この日は、奇しくも『創価教育学体系』第1巻発刊日でした。

## 6枚目／<sup>まきぐちせんせい</sup>牧口先生の遺志を継ぎ、<sup>とだせんせい</sup>戸田先生は一人立つ

(5枚目の絵の裏に貼る)

1945年(昭和20年)7月、<sup>とよたまけいむしよ</sup>豊多摩刑務所(戦後、<sup>なかのけいむしよ</sup>中野刑務所と改称)を出た<sup>とだせんせい</sup>戸田先生が最初に目にしたのは、あたり<sup>いちめん</sup>一面焼け野原となった<sup>にほん</sup>日本の惨状でした。その<sup>こうけい</sup>光景を前に<sup>とだせんせい</sup>戸田先生は、<sup>まきぐちせんせい</sup>牧口先生の遺志を継ぎ、<sup>こうせんるふ</sup>広宣流布の実現を<sup>めざ</sup>目指して一人<sup>ひとり</sup>立ったのです。

<sup>とだせんせい</sup>戸田先生は<sup>まきぐちせんせい</sup>牧口先生の<sup>いっしゅうきほうよう</sup>一周忌法要で、<sup>せんげん</sup>こう宣言しました。

「先生は、死して<sup>ごもん</sup>獄門を出られた。<sup>ふしやう</sup>不肖の弟子の<sup>わたし</sup>私は、生きて<sup>ごもん</sup>獄門を出た。……<sup>こうせんるふ</sup>広宣流布は、誰がやらなくても、この<sup>とだせんせい</sup>戸田が<sup>かなら</sup>必ずいたします」

## 7枚目／<sup>まんせたい</sup>75万世帯の達成

(6枚目の絵の裏に貼る)

この<sup>しんしゅつぱつ</sup>新出発にあたって<sup>とだせんせい</sup>戸田先生は、<sup>がっかい</sup>学会の<sup>かつどう</sup>活動は<sup>きやういくかいかく</sup>教育改革だけに<sup>とど</sup>留まらず、<sup>しゃかい</sup>社会・<sup>せいかつ</sup>生活の<sup>はびひろ</sup>幅広い<sup>かいかく</sup>改革を<sup>もくてき</sup>目的とすることから、<sup>そうかきやういくがくかい</sup>創価教育学会の<sup>めいしよう</sup>名称を「<sup>そうかがっかい</sup>創価学会」へと<sup>へんこう</sup>変更しました。そして、戦後の<sup>こうはい</sup>荒廃した<sup>しゃかい</sup>社会の中で、多くの<sup>みんしやう</sup>民衆に<sup>きぼう</sup>希望と<sup>ゆうき</sup>勇気を<sup>あた</sup>与え<sup>つづ</sup>続けていったのです。

<sup>だいにだいかいちょう</sup>第二代会長の<sup>とだせんせい</sup>戸田先生は、<sup>もくひやう</sup>目標とした<sup>くきやう</sup>75万世帯の<sup>たっせい</sup>弘教を<sup>よくねん</sup>達成し、その翌年の<sup>しやうわ</sup>昭和33年に<sup>せいきよ</sup>逝去されました。

## 8枚目／創立の精神を受け継ぎ、世界へ

(7枚目の絵の裏に貼る)

牧口先生・戸田先生の意志を継いで、第三代会長に就任した池田先生は、創価学会をさらに大きく発展させ、SGI(創価学会インターナショナル)を結成して世界192カ国・地域に日蓮大聖人の仏法を広めました。そして、今日の創価学会、また池田先生の平和・文化・教育活動は、世界中の多くの知性から賞賛されています。それは、同時に牧口先生・戸田先生の偉大な功績の証明でもあります。

池田先生は、創立の月・11月に綴られた随筆のなかで、次のように呼びかけられています。

『『創立の月』とは、新しい歴史を“創る月”である。正義の師子が猛然と“一人立つ月”でもある。(中略)『創立の月』は、常に『今この時』にある。今の瞬間、瞬間を勝ち取ってこそ、次の五十年、百年にわたって崩れぬ、常勝の学会が『創立』されていくからだ!』と。

11月18日には、創価学会の歴史を学ぶとともに、民衆の幸福に尽力された三代会長の崇高な精神を受け継ぐ意義があるのです。

決意など